

『オリエンタルコンサルタンツ 河川の維持管理支援 関連情報を高度利用』

河川の維持管理支援

関連情報を高度利用

オリエンタル
コンサルタンツ

オリエンタルコンサルタンツは、河川の維持管理業務を支援するツールを開発した。携帯情報端末（PDA）を使って巡視・点検データを屋外で入力すれば、日誌の自動作成ができる。巡視、点検、施設の情報データベース（DB）で一元管理することにより、複数のデータを集約した河川カルテの作成や活用、適切な巡視・点検計画の立案なども可能になる。今後は、開発したツールの販売や導入支援などを展開していく。

同社が開発した「河川巡視・点検システム」は、河川の維持管理業務を効率化するとともに、さまざまな情報の高度利用を支援する。地理情報システム（GIS）をベースに、巡視・点検データや河川施設の管理情報、工事履歴、異常個所などを集約して、PDAとパソコンがあれば、さまざまなデータが活用できるようになる。

週に2〜3回の頻度で行う巡視、巡視で発見した異常や変化を確認するための点検（年間3〜5回）で、担当者はPDAを現場に携帯し情報をその場で入力する。過去の巡視・点検情報や工事履歴をDBからダウンロードし、屋外で閲覧することも可能。入力した情報で作業日誌を自動作成したり、複数の情報を集めた河川カルテを作ったりなど、さまざまな使い方ができる。

手作業や紙ベースのデータ管理と異なり、労力や情報の効率的で高度な

利用が実現する。データの蓄積量が増えれば、維持管理や改修の計画を立案する際の支援ツールとして活用でき、過去の類似データを検索して検討中の対策や計画が適切かどうか、判断材料にすることもできるようになる。

4月から国土交通省が直轄管理する河川で一部導入されている。今後は、国交省の河川事務所だけでなく、地方自治体に対しても導入を提案していく。河川以外にも道路や公園などインフラ施設全般の維持管理業務を効率化するための提案だ。

般の維持管理業務を効率化するための提案だ。